

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 25 年度

事業所番号	2773801085		
法人名	株式会社 フィールド		
事業所名	グループホームこころあい		
所在地	大阪府羽曳野市島泉4-3-18		
自己評価作成日	平成 25年 4月 20日	評価結果市町村受理日	平成 25年 7月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyousoCd=2773801085-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 25年 5月 31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的(家族的)な雰囲気大切に、入居者様にとって安らぎある我が家となるようなホーム作り。 ・三位一体(入居者様、家族様、職員)でのホーム作り。 ・地域密着型サービスとして、地域との繋がりを大切に、家族介護教室の開催や地域の方々との交流を通じ地域に根づくホーム作り。 ・市内の他ホームとの交流を通じ、合同での介護フォーラムの開催やこころあい通信の発行等、認知症や高齢者介護に関する情報を提供し、地域貢献ができるホーム作り。 ・単独でのホーム運営に留まらず、同法人内の各グループホームとの協力体制を構築し、サービス提供の質向上を図れるホーム作り。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅街にある自宅を改修・増設した2ユニットのグループホームで、1階と2階の一部に居室があります。地域の小学校や地区福祉委員、民生委員との日常的な繋がりが多く、この1年でさらに地域との繋がりが広がりました。地域住民も参加する防災訓練や外出支援、小学校への登下校時の見守り隊などから小学生との交流が深まり、地域密着型サービスの理念を具現化しています。また、居室やリビング兼食堂の設えは家庭的で、中央にはテーブルを配置し、生活用品は目に触れるところにある等、五感を刺激する場面づくりに努めています。利用者は喜怒哀楽を自由に表現することができ、思い思いのペースで日々の生活を送り、自身の居場所として、安心して過ごしています。職員も利用者と共に生活を楽しみながら、利用者への尊敬の念を持ってケアに努めています。職員間の関係も良く、利用者一人ひとりとの関係を大切に築き、地域での暮らしを支えるために地域との繋がりを意識しながら、日々取り組んでいます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念「心豊かにその人らしい安心ある暮らしを大切に愛と笑顔で共に歩む」を、ホーム内数か所に掲示し、理念に託した思いも含め、職員間はもちろん、地域の福祉委員、家族様とも共有し実践に向け日々取り組んでいる。職員による外部研修受講の際の自施設実習課題に、職員間での理念の共有を組み込むなどし、実践に取り組んでいる。家族様への毎月のお便りにも掲載し、地域の住民やホームに関わる全ての人々が心豊かに安心ある生活を送れるようにと取り組んでいる。	理念は、利用者や地域の人々、職員が常に目に触れるよう、玄関やエレベーター内、リビングの壁面などの数カ所に掲示しています。「心豊かに」は利用者や家族、職員、地域のすべての人が『心豊かに暮らせるように』との願いが込められています。また「その人らしい安心ある暮らし」の具現化に向けて、利用者一人ひとりが地域で馴染みの人々と馴染みの場で継続した暮らしができるように、地域との繋がりを大切にしながら管理者、職員が一体となり取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉委員とのお花見や花火、小学校の登下校時の旗振り（見守り）への参加や運動会の見学、中学生の職場体験受入、近隣への散歩、なじみの店への買い物等、地域住民との交流を大切に、地域の一員として繋がりをもてるよう、理念に掲げる「その人らしい」を大切にしている。 地域住民の方々に避難訓練にも参加して頂き、外出行事にも同行して頂く等の交流の機会を大切にしている。 また、AEDの設置、こころあい通信の発行、家族介護教室の開催等を通じ、地域に役立てるよう取り組んでいる。	職員は、利用者が住み慣れた地域で暮らしを継続することの重要性を認識し、さまざまな取り組みを実践しています。隣接する小学校の登下校の見守りが定着し、小学校より登下校時間を記した予定表が届きます。下校時には利用者も旗を持ち、見守りに出かけることで、日常的に小学生と挨拶を交わす関係ができました。秋には職場体験に来る中学生が、裏庭の芋掘りに参加しています。また、小学校の入学式には、お祝いの作品を届けます。地域自治会への加入や「こころあい通信」の回覧、地区福祉委員の外出時の付き添い、災害訓練への地域住民の参加など、日常的に地域と繋がりながら暮らしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	家族介護教室、介護フォーラム、キャラバンメイト養成講座、年3回のこころあい通信の発行等を通じ認知症や高齢者の介護に関する情報提供や、相談会を行っている。 また、地域住民との交流を通じ、認知症高齢者への理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入居者様の近況報告、当ホームの取り組み、行事報告、家族様からの意見や要望等を報告し、参加者からの意見を頂いている。また、ホームからも課題となっている案件があれば、運営推進会議をとおして、助言を求め、協力を要請する等、サービス内容の向上に活かせるよう取り組んでいる。</p> <p>ヒヤリハットや事故報告等もホームの課題として報告し、意見を頂戴し新たな取り組みに繋げている。</p> <p>会議等で頂いた意見は、全体会議を通し全職員に報告し、新たな取り組みやホームの運営に活かしている。</p>	<p>運営推進会議は、規程・規約を作成し、おおむね2か月に1回開催しています。運営規程に「守秘義務」を謳い、プライバシーにも配慮しています。構成員として、利用者、家族会代表、高生クラブ会長、校区福祉委員、民生委員、介護相談員、地域包括支援センター職員、学識経験者などが参加しています。会議では、ホームでの行事の様子や利用者の日々の生活、看取りに向けての経過などが報告されています。地域からは、地域行事の情報を得ています。ホームから出された利用者の外出の課題を受け、地区福祉委員が協力を申し出て、外出への介助が始まるなど、運営推進会議を通じて地域の協力が得られるようになりました。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>定期的な運営推進会議、GH部会やキャラバンメイト養成講座をとおしては基より、日常においても相談や問題（苦情・事故）が生じた場合は、必ず連絡し助言を頂きながら、協力関係の構築に取り組んでいる。</p>	<p>市の担当課や地域包括支援センターと協力し、「介護フォーラム」「家族介護教室」などを開催しています。また、「市キャラバンメイト養成講座」にも参加しています。昨年より、市内全グループホームと市の担当者が出席するグループホーム部会に、地域包括支援センターと社会福祉協議会も出席するようになり、グループホームが抱える課題を話し合う機会も得ています。1つの成果として、市内のグループホームが一丸となって要望書を提出し、入居条件である居住地の捉え方に柔軟性を持たせ、隣接市の利用者を入居定員の2割まで認めるなどの成果が上がりました。また、空床への対応や、さまざまな課題を市と協働して取り組んでいます。介護相談員も定期的に訪問しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ホーム内の研修(勉強会)や外部研修への参加をとおり、身体拘束に関する理解を深め、言葉の使い方や、心情に関する事柄も含め、身体に限定しない「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。</p> <p>玄関の施錠に関しては、家族会の希望と建物の構造上施錠を行っているが、入居者様の希望があれば随時職員が同行し戸外へ出て頂いている。</p>	<p>利用者の人権やプライバシーの保護、身体拘束については、ホーム内での学習会や外部研修への参加を通して、理解を深めています。日々のケアにおいて職員間で気になることは、お互い注意をしています。玄関の鍵は、玄関すぐに居室が並び、日中過ごす食堂から死角となっており、建物の構造上仕方なく施錠しています。離設した利用者もおり、家族の希望で現在は安全を優先し施錠しています。自ら開錠できる利用者や、外に出ることを意思表示できる利用者もおり、その都度対応しています。職員は、リスクが高くても玄関の施錠は拘束に当たると認識しており、利用者が外出したい様子を察知し、職員は付き添うなどの対応をしています。</p>	<p>今後も、利用者の様子を把握しながら、玄関先での水やりや作業時には玄関をオープンにするなど、拘束と安全面について家族と話し合い、段階を踏んで取り組むことが期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ホーム内の研修(勉強会)や外部研修への参加をとおり、虐待防止に関する理解を深め、言葉の使い方や、心情に関する事柄も含め、虐待防止に取り組んでいる。また、些細なことも見逃さないよう日々の観察を怠らず、記録に残し共有の徹底を図っている。</p> <p>また、管理者、両棟主任が役割分担し定期的なヒヤリングを行うことで、業務に関する改善や職員のストレスの軽減に努め、虐待防止に取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者様の中にも制度を活用されている方もおられ、職員もホーム内の研修(勉強会)や、外部研修への参加をとおり理解を深めることで、適切な支援ができるよう取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては、その後の紛争を未然に防ぐ意味合いにおいても専門的な用語を使わず、時間をかけ項目ごとに詳しく分かり易く説明するように心がけ、ホーム側からも不安や疑問点を項目ごとに尋ね、十分な説明、理解・納得を図るよう心掛けている。また契約時以外においても、利用料等の改定の際には、そのつど全家族様へ十分な説明を行うよう心がけ、理解・納得を図っている。</p>	/	/
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々のケアの中で、入居者様の意見や要望等はコミュニケーションを通じ確認するように努めている。また、家族様等には来所時は基より、家族会、運営推進会議、アンケートなどを通じ意見を頂き、案件に応じ電話連絡を密にするなど、些細なことでも言い易い環境づくりを心掛けている。民生委員の窓口や大阪府社会福祉協議会の苦情相談窓口の案内を玄関に掲示、ホーム内でも苦情相談窓口を設け随時受け付け、ホームの質の向上に役立てるよう取り組んでいる。</p>	<p>4か月に1回「こころあい通信」を発行しています。また、担当職員が利用者一人ひとりのホームでの様子や健康状態、行事での様子、ホームの取り組み等を手書きのメッセージに書き込み、お便りにして家族へ発信しています。年2回家族会を開催し、アンケートと共に意見を聞く機会を設けています。また、家族の来訪時には、職員から積極的に働きかけ、家族が意見や要望を出せるよう努めています。また、利用者の意見をできるだけケアに反映できるよう、カンファレンスで話し合っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個別面談、アンケートを通じ職員の意見を把握、定例会議にて報告・共有し、反映させている。 日常の職員間のコミュニケーションの中でも意見交換を図り、毎月の定例会議やカンファにおいても意見を述べる機会を作り、運営に反映させている。 また、職員の意見や提案について、管理者は法人内の運営会議にて、代表者、取締役、同法人内の他事業所管理者等に報告し運営に反映させている。	各ユニットリーダーによる年2回の職員定期個別面談と、管理者による随時の個別面談により、職員の要望や意見を聞く機会を設けています。職員間の関係が構築されており、職員から出された意見を基に、記録用紙の変更や業務の見直しを行うこともあります。各利用者に担当職員が決まっており、利用者へのケア方針が全体会議で話し合われ、日々のケアに繋がっています。職員は、仕事へのモチベーションも高く、楽しんで仕事をしています。また、同法人内の異動など、人事に関する希望や相談も可能です。管理者は、学習会への参加やグループホーム間での職員交流会などへの参加も積極的に支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務表作成にあたり、事前に希望休暇を3日間訊いており、他にも個々人の諸事情に応じる勤務体制を整備している。また、やりがいや向上心を持ってもらえるように、仕事への動機付けを説明し、自発性に結び付くようにとティーチングやコーチングに努め、職員個々が目標を達成できるよう環境・条件の整備に努めている。代表者はホームに訪れる機会が少ないため、法人内の運営会議での報告や稟議書を通して把握に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月、定例会議での勉強会をはじめ、同法人内での交換研修や、同法人内の新規事業所立ち上げに伴う新職員の研修受け入れや新入職員への伴走によるトレーニングにも取り組んでいる。 また、外部研修に関する情報を職員間で回覧し、参加後に得た情報も共有している。 働きながらの資格取得に関しても、シフトや金銭面での応援制度を設けている。代表者はホームに訪れる機会が少ないため、法人内の運営会議での報告を通して把握に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域独自のネットワーク「みやびネット」に参画し、ネットワークづくりに取り組んでいる。</p> <p>法人内他施設との交換研修や、その他、市のGH部会、介護フォーラム、グループホーム交流会、計画作成の集い、キャラバンメイト養成講座等への参加・交流をつうじ、勉強会や情報交換・共有を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。代表者はホームに訪れる機会が少ないため、法人内の運営会議での報告を通して把握に努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>各入居者様の、個別のニーズを聞き出すよう心掛けている。本人様のお話を傾聴し、思いを受け止め安心して生活して頂けるよう信頼関係の構築に努め、会話が困難な場合も、表情やしぐさ等から思いを受け止めるよう努めている。また、月に1度市町村からの介護相談員の訪問も活用している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居初期は基より、来訪時や、年2回の家族会開催時等、個別に家族様のニーズを聞き出すよう心がけ、一日でも早く、相互が信頼しあえる関係の構築に努めている。</p> <p>日常でも電話やこころあい便りを通じ、常に些細なことでも報告し、家族様側からも些細なことでも話して頂けるよう働きかけている。常日頃から、家族様等の思いや要望等を話し易い環境作りを全職員で心がけ、信頼関係の構築に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人様や家族様とのコミュニケーションを重視し、要望を聴きニーズを理解することで、必要な支援に対し他のサービス利用も含めた情報を提供し対応に努めている。</p> <p>また、ご本人様や家族様がその時に必要とされているサービスの提案と説明を行い、同意して頂いたサービスについては職員間で共有し、対応と実践に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と共に生活しているという考えの下、入居者様の主体的な生活を支えるという立場で、掃除、洗濯、調理、買い物等の役割を持って生活して頂けるよう支援に努めている。また、他者様との良好な関係や、入居者様と職員が助け合い、支え合う関係を構築し「共に歩む」楽しさや喜びを日々大切にし、日頃から感謝の気持ちを伝え、信頼関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こころあい便りをはじめ、来訪時や電話等で家族様に対し、本人様の情報・状況を良い事も悪い事も隠さず報告することで、常に職員と同じ情報を共有して頂き、家族様にも一緒に考えて頂き、意見を取り入れている。 ご本人様と家族様との関係を大切に考え、共にご本人様を支えていける関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理念でもある「その人らしい」を大切に考え、人間関係の保持を重要視し、本人様の思い出の場所や入居前のなじみの店に買い物に行く機会、また家族様との絆は基より、入居前のなじみの人との交流の機会も遮断されることが無いよう、地域へ出ていく事で地域の方との関わりを継続できるよう支援に努めている。また、ご本人にとって大切にしている思い出等の記憶が途切れないように日頃の会話においても、意識した関わり・支援に努めている。	アセスメントで入居前の暮らしを確認し、馴染みの場所や人との繋がりが途切れないよう、介護計画に位置づけて支援しています。知人の来訪に関しては、家族にも意向の確認を行い、利用者の平穏で安全な暮らしを守っています。ホームから送付する「こころあい便り」に利用者の自筆の手紙が添えられており、家族は喜ばれています。墓参りや以前の住まいへの外出希望を叶えたり、入居前に配食弁当を届けていた方の訪問もあります。ホームに入居後、地域の人々と交流を図り、馴染みの関係を築いています。毎週「ハンズプラン」としてホームに来訪する、カナダ人男性とも馴染みの関係を築いています。馴染みの関係の中で、利用者の機能低下防止と笑顔と元気を引き出すアクティビティは、利用者の楽しみとなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々人の性格等に配慮し、入居者様同志の相性も踏まえ、良好な関係を構築・保持できるよう、落ち着ける場所を確保し、コミュニケーションの困難な入居者様も職員が介入する等して孤立することなく、良好な関係を築けるよう支援に努めている。またレクリエーションや日々の役割の中で入居者様同士が互いに協力し支え合えるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も出会ったご縁を大切にし、必要に応じて、家族様からのご意見・相談を受けることが出来るよう支援に努めている。 また、入居中のアルバムを作成し、職員や他入居者様からのメッセージを添え、いつでも来所して頂けるようにとお声を掛け、関係性を維持できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子観察を徹底し、本人様の希望を聴くことはもちろん、言葉にならない思いを組み取れるように努め、職員間でのカンファレンスをはじめ、家族様からも情報を収集し、全職員間で共有、検討することで本人様本位であるよう努めている。	家族や、利用者との何気ない会話や日々の関わりの中で聞き取った好みもの、喜ぶものなどを把握しています。意向や希望を利用者自身で発信することが難しい場合には、職員が表情や身振りから掴み、申し送り、記録に残して情報を共有すると共に、介護計画に繋げるなど、希望に沿った支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や、家族様の情報等からこれまでの生活背景の把握に努め、他施設からの入居、他サービスの利用等に関しては、介護支援専門員等から情報を収集し把握に努めている。また、可能な限りではあるが、日常の中でも本人様からのお話を聴かせて頂く事で、出来るだけ以前の生活に近づけるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>過去・現在の病歴を把握し、日々の様子観察や職員からの申し送り、カードックスの把握、バイタル・行動・表情の変化を確認しながら、心身状態の把握に努め、職員間をはじめ家族様とも共有を図っている。毎朝の医療連携機関への報告時（健康管理表での）にも、状態を伝え指示を仰ぐことで早期対応に努めている。</p> <p>また、入居者様の有する能力の把握は基より、それらの能力を継続して発揮して頂けるような支援に努めている。</p> <p>日常の中でも、新たな可能性を見出させるように情報共有を図り、職員側の支援により有する能力や可能性が閉ざされてしまうことがない様に配慮している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月の定例カンファレンスの際のモニタリングや、3カ月毎の居室担当によるモニタリング等から、課題・ニーズの修正・変更の有無確認を行った上で、現在6か月毎に、ケアプランの見直し・更新を行っている。日常においても、職員間で意見交換を行いケアプランの実践に繋げている。</p> <p>体調（状態）変化時や入・退院時等には、随時（本人様の状況に応じ、連携医の見解をもとに、家族様の意向をふまへ）新しい介護計画書に反映させるようにしている。</p>	<p>介護記録、居室担当職員によるモニタリング、職員間で共有した情報を基にカンファレンスを行い、介護計画に反映させています。介護計画は介護サービスチェック表に連動させて、日々実施状況を確認しています。概ね6か月毎に見直しを行い、急な変化の場合には、随時利用者の状況に沿って変更をしています。変更した介護計画は利用者にゆっくりと説明を行い、自筆の同意を得た上で控えを家族に送っています。利用者の同意が困難な時には、家族の来訪時に説明をしたり、郵送したりする等して、同意を得ています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子や言動、表情をありのまま記録し、日々の申し送り等を含め情報共有を行っている。また、介護計画をふまえた上で、気付きや、変化等もカンファレンスで情報交換し、見直しや日々のケアの実践に反映させるようにしている。また、介護サービスチェック表を、介護記録と一対として記入することで個別の介護計画が実践できているかをチェックした結果や、カンファレンスでの情報や評価を踏まえ介護計画の更新時に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームは「居住系」の性質上、同じ地域密着型の小規模多機能と異なる部分があり、多機能化という視点では難しいように思えるが、家族様等にも協力を仰ぎ、本人様の希望に叶うよう取り組んでいる。また、面会（好きな時間での）・外出（選挙・墓参り等）・外泊（旅行等）・居室への家族様の宿泊等のニーズにも添うよう努めている。その時々生じる様々なニーズ（個別の医療機関受診等）にも、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型という位置付けにあり、行政及び福祉委員・民生委員・老人クラブの方々との、定期的な交流や、地域の学生や住民との直接的なふれあいの機会を設けている。 また地域との関わりの中で、本人様にもご自身自体も地域の資源であると感じて頂けるように、心身の力を発揮しながら安全に心豊かな暮らしを楽しんで頂けるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎朝の医療連携機関への報告（健康管理表）や、かかりつけ医による定期的往診（週1回）、定期検査を受けながら、日々の健康状態の安定に努めている。また、訪問看護においても状態に応じ訪問回数を増やす等、健康状態の安定に努めている。日々の状態観察の中で、変化があれば医師/看護師だけではなく家族様にも報告し共有している。また、必要に応じ紹介状を書いて頂き、専門医療機関の受診を行っている。病床付医療機関とも提携し特変時にも対応できるよう努めている。 心身の状態により本人様や家族様の意向に合わせ、適切な医療を受けられるように支援している。	日頃より利用者の健康管理には注意を払い、バイタルサインを記録に残しています。また、看護師へ報告を行い、適切な医療が受けられるように支援しています。入居前からかかりつけの医療機関には、基本的に家族が対応することで受診を継続しています。看取り期への支援も視野に入れて定期往診や訪問看護等、医療機関とも日頃から密に連携を図っています。点滴や在宅酸素療法、必要に応じて専門機関への受診等も支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々の身体状況の把握により、気付いた点や気になる点等は、定期的訪問（週2回）時に、報告、相談し、指導を受けることで、早期対応（適切な受診や看護）と悪化防止に努めている。また、定期的訪問以外にも24時間オンコール体制を結んでおり、必要に応じ報告、相談、指示・指導を受けている。また、看護職からの職員への助言や指示・指導は常に職員間で共有し、日々のケアに反映させている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入居者様の入院に際しては、当ホームサマリー（看護師作成）の提供をはじめ、入院期間中も面会による状況把握、病院関係者との関係構築を図り、情報交換に努めている。 退院時は、主治医をはじめ必要に応じて理学療法士等の専門職からも、指示や助言を頂き、プラン（暫定）を作成し、退院後の日常生活上の留意事項の把握に努め、事前に必要な環境を整え本人様に安心して、退院して頂けるよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の際に意思変更可能である事も説明した上で、重度化・終末期に関する意向を伺っている。実際に重度化、終末期を迎えられる際にも医師、管理者、家族様（参加可能な状況であれば本人様含む）で今後の検討の話合いの場を何度か設定し、最終的には、医師の見解と、家族様（本人様）の意向を確認した上で、全職員間で情報を共有し、家族様（本人様）の意向を尊重した支援を目標に掲げ、チーム一丸で看取り介護に取り組んでいる。</p> <p>また GH は看取りが可能とされながらも、医療的ニーズの充実には困難なこともあるため、連携医の助言に基づき、早期の段階より家族様への説明および了承を得ながら、必要に応じては他医療機関等への調整もおこなっている。</p>	<p>「看取りの指針」を作成し、入居時には利用者、家族にホームの方針を説明して、「看取り介護についての了解覚書」に同意をもらいます。重度化により必要が生じた段階でその都度、利用者や家族、医療関係者を交えて話し合いをした上で、「看取り介護についての同意書」をもらうようにしています。これまでに利用者、家族の要望により、数例の看取りを行いました。看取りにあたっては、入居後以降、利用者との関わりを大切にしながら、その人の思いやその人生に触れる中で人生の終焉に向けて支援をしています。職員は、看取りのケアに取り組むことで、命の大切さを学び、成長にも繋がっています。また、管理者は、看取り後の職員の精神的なケアも重視しフォローしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護師による勉強会を定期的に行い、応急手当や緊急時対応のシミュレーション等の訓練、緊急時対応ガイドライン、緊急連絡網の整備、周知徹底を図っている。</p> <p>また、ホームにAEDを設置し、全職員の普通救命講習(AED)の受講を支援している。</p> <p>また、実際に急変や事故発生があった際には、事後にも検証を行う事で実践力を養うよう取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを整備し全職員に通知し、避難経路の周知徹底を行っている。また、近隣周辺にも避難経路の説明や協力を依頼している。 また、近隣周辺へ通知した上で、消防署の協力のもと消防署合同・ホーム単独で、年に4回全入居者・職員で避難訓練を行い、マニュアル改訂を含め災害時対策に備えている。避難訓練には、地域福祉委員、家族様にも参加して頂き、マニュアル改訂を含め災害時対策に備えている。 避難訓練以外にも、月に数回職員間でシミュレーションを実施している。	避難訓練は年4回実施しており、うち2回は消防署より指導を受けています。消防訓練には、家族や福祉委員、民生委員など、地域住民も参加しています。職員が利用者をホーム外に誘導した後は、地域住民が安全な場所に誘導する実地訓練も行いました。消火器やスプリンクラーの他に煙感知器や熱感知器が設置され、災害発生時のマニュアル、連絡体制も整っています。家族や住民と共に訓練を行うことで、さまざまな課題が出され、安全への意識が高まっています。また、2階にも居室があるため、日頃から職員はシミュレーションを行い、安全対策への意識付けを行っています。水や食料品の備蓄、防災グッズなど、災害に備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の誇りや自尊心を大切に考え、プライバシー（排泄に関する声掛け、個人情報等含）を損なわない様に個々に応じた声掛けを行っている。 また、勉強会においてもプライバシー保護を取り上げ、学ぶ機会を設けて意識を全職員間で共有し、日々のケアに活かせるよう努めている。	日頃から言葉遣いや対応について気になることがあれば、職員同士で話し合える環境が整っています。その人に合った言葉かけに心がけ、拒否がある場合には無理強いすることなく、他の職員が声をかけたり、時間を置いて対応したりするなどしています。プライバシーや個人情報保護、虐待について、定期的に学習会を実施しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り個々の希望に添える様に、いくつかの選択肢を示す事で、自己決定して頂ける様働き掛けている。また、日常のさりげない会話やコミュニケーションを通じ、言葉による意思表示や、自己決定の困難な入居者様に対しても発語や動作、表情等を観察する事で意思を汲取れる様努め、家族様にも相談・確認しながら希望に添うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の個々の状態、ニーズ等を把握した上で、希望に添うよう努めている。居室で過ごされたり、フロアで他者様と過ごされたり、それぞれ個人のペースを尊重し、生活リズムや安全面にも配慮を行いながら支援している。また、ご自身で一日の予定表を作成して頂くなど、「そのひとらしく」を一緒に考え、希望に添うよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容をはじめ、月に1度は美容師に来て頂き、希望に応じた髪型にされたり、整容品等も個人の嗜好に合った物を使って頂いている。ご自身でされる方には自身でして頂き、支援が必要な方には選択肢を提示し、自己決定して頂けるよう支援に努めている。 服装も場面に応じ、おしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。また、食事の際の食べこぼしにも配慮しながら清潔保持にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、買い物、調理、盛り付け、後片付け、配膳、下膳等を各入居者様のできる範囲で共に行っている。食べる事だけではなく準備の段階から、会話や自身ができる事への実感等を楽しんで頂ける様な雰囲気作りも含めて取り組んでいる。また、外食・出前にて好きなメニューを選んで頂いたり、誕生日会ではメニューを入居者様に考えて頂き、目の前で共に調理したり、ケーキ作りを行う等、食への楽しみを感じて頂けるように取り組んでいる。	食材は業者から届き、毎食ホームの台所で、利用者と一緒に食事作りを楽しんでいます。ホームで調理をすることで、その日の利用者の状態に応じて、きざみやとろみ食などに形態を変えたり、味付けの変更が可能です。対面式のキッチンから、調理の様子や音、においなどが拡がり、利用者の五感を刺激しています。また、嫌いなものやアレルギーがある場合には、献立を変更しています。職員は、利用者と同じテーブルで会話を楽しみながら、食事を摂取しています。外食やお鮎の出前を取ることもあり、利用者の楽しみとなっています。常に水分量や食事量などの確認を行い、健康への配慮をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材提供会社よりカロリー計算されたメニューを、ホーム内で調理し個々の食事形態に合わせて提供している。定期の体重測定で体重の減少等が見られる際は、補食の提供等で追加栄養摂取して頂き、必要栄養分量の確保に努めている。また、血糖値に注意が必要な方には、主治医・看護師の助言を踏まえた食事提供をおこない、状態の安定に努めている。水分補給に関しては、いつでも自由に飲んで頂ける様お声掛けし、摂取量を記録、15:00 時点で中間計算し、1日最低でも1,000ccは摂取して頂けるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じたお声掛け・見守りを行いながら、自己にて困難な部分を介助させて頂き口腔ケアを行っている。個々人の口腔状態の把握に努め、週1回の歯科医師による往診時には、歯科医による口腔ケア・治療を受けられ、歯科医の意見も反映させた口腔ケアの実施に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンを記録し、個々の排泄状況を把握した上で、排泄のお声掛け・誘導を行っている。また、失禁の軽減が図れる様、お声掛けの間隔や状況に配慮し、安易におむつを使用せず、出来るだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。お声掛け・誘導を継続しながらも失禁増加による本人様の落ち込みや混乱等が著しい場合は、パットやRパンの使用を検討し、本人様の心身の負担軽減を図っている。</p>	<p>利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレへ誘導しています。利用者の様子を見ながら紙パンツ、リハビリパンツなど、利用者に合ったものを試みています。排泄回数はケース記録に残しています。使用量の増減を把握しながら、排泄の間隔を再度確認し、積極的に排泄の自立に向けた取り組みを行っています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>下剤の使用のみに頼らず、水分摂取量の増量、乳酸製品・寒天・イモ類等の食品摂取、腹部マッサージ、ホットパック使用や体操等を行い、便座に座われた際にもいきみのお声掛けや腹部マッサージ、ウォシュレットにて刺激する等、自力での排泄と便秘予防に努めている。また、排便時の量や形状等を観察・記録し主治医・看護師に相談・助言・指示を頂いている。 それでも排便が見られない時は、医師の指示による下剤の調整や、坐薬の使用、看護師による浣腸・摘便等で対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	十分に見守り出来る安全な環境で入浴して頂くため、週3日(2日に1度)の入浴を基本に、個々に入浴を楽しんで頂けるよう時間帯や入浴の順番、温度等は本人様の体調を考慮した上で希望に添えるように調整している。 湯船に浸かって(個々に応じて簡易リフトを使用)頂き、身体を温めて頂くことは基より、入浴中のコミュニケーションを通じ心身のリラックスを図れるよう支援している。また、入浴剤やシャンプー・ソープ類、洗身タオル等は個々人の好みの物を使用して頂いたり、季節湯(ゆず湯)等で楽しんで頂くなどしている。	利用者の習慣や希望に応じて、週3回以上の入浴を基本に対応しています。身体機能が低下した場合でも、お湯に浸かることができるよう、リフト浴も設置しています。体調が悪い時には、足浴を促し、下着を交換するなど、清潔への配慮をしています。入浴時間を利用者とのコミュニケーションの時間と位置付け、楽しみになるような声かけを行っています。また、季節のゆず風呂や菖蒲湯なども取り入れています。現在、夜間入浴を希望している利用者はいませんが、職員体制を鑑みながら対応を検討したいと考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	個々の体調やニーズは毎日変 化するので、体調管理を重視し ながら、居室での昼寝や、ソ ファーや座イス、ビーチチェア 等も利用し、出来るだけ本人様 の希望に添える様に休息して 頂けるよう支援している。また、 心地よい睡眠を取って頂ける よう環境整備（寝具、室温、 湿度、空調、調光、保温等） や臥床姿勢（クッション等使用） に配慮し、気持ちの昂りで眠 れない時等は、安心して眠って 頂けるよう、コミュニケーション による気分転換を図るなど、 隣に寄り添い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	個々の薬情については全職員が 把握し、薬の変更・増減に関し ての把握もカードックスや申し 送りを通し周知徹底するよう 努めている。服薬介助の際には、 ミスが無いよう二重、三重の チェック態勢での服薬支援に 努めている。また、服薬後の 観察を怠らず、職員間で情報 共有し、医師・看護師に報告 している。 また、薬剤師による勉強会を 設け、薬（効果、効能、注意 点等）への理解を深めるよう 取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居者様個々の習慣や、生活歴を本人様・家族様等から情報を頂き、それらを活かした役割等を職員側から入居者様へ提案する形で、入居者様の意思を尊重し入居後も継続して頂けるよう支援している。個々の果たす役割が、個々人の喜びや、張合い、生きがいへと繋がるように取り組んでいる。 また、喫煙や買い物、外出、出前、外食、ホーム内レクリエーション（行事含）等においても、希望を反映出来る様に取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の個々の身体的な状態や天候等に配慮し、いくつかのグループ別や個別対応等、出来る限り本人様の希望に沿って、外出（散歩や買い物）して頂けるよう支援している。他にも、隣接する小学校の登下校時の旗振り（見守り）への参加や、外出時に地域福祉委員に同行して頂くなど、地域との関わりを持ちながら外出できるよう取り組んでいる。また、家族様の協力の下、選挙や墓参り、一時帰宅や外泊等の支援を行っている。外出行事の際には、入居者様の希望を行き先等に反映させるようにしている。	外出チェック表を作成し、利用者一人ひとりが気分転換や社会との繋がりを持ち、生活ができるよう働きかけています。車いすを利用している利用者も、小学校の登下校の見守りやおやつの買い出し、近隣への散歩で週に2～3回外出しています。また、一人ひとりのペースに応じて外出を楽しむことができるよう、利用者の状態に応じたグループ別の外出対応を行っています。お花見や遠足などの行事には、地区福祉委員の協力を得て、一緒に外出しています。今後は更に、利用者一人ひとりの希望に応じた個別外出への対応ができるよう、取り組みたいと考えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理に関しては、難しい事が多いので、多数の入居者様はホーム側で預らせて頂いているが、中には家族様の了解の下、少額の金銭を自己にて管理して頂く等、個々人に合わせた支援を行っている。また、外出時の買い物での精算の際には、本人様にお支払いして頂ける様に支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人様の希望があれば、自由に電話や手紙の遣り取りをして頂けるよう、支援を行っている。 また、毎年家族様への年賀状も出来る範囲で本人様直筆のものを郵送している。レクリエーション等で作成したものに、本人様から家族様へのメッセージを記入したものを、こころあい便りと一緒に送付している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>共用空間にて、不安や混乱無く、くつろいで過ごして頂けるよう安全を配慮した上で、共用空間の壁に季節に応じた装飾や入居者様が作成された作品、各入居者様の思い出の写真を貼る等、和めるような雰囲気作りを心掛けている。</p> <p>また、季節の花を飾る等、ホーム内でも季節を感じて頂けるよう心掛けています。共用空間の環境整備（室温、湿度、空調、調光、換気、音、等）にも配慮し、居心地良く過ごして頂けるよう努めている。</p>	<p>玄関先には花壇があり、マーガレットやゆりなどの季節の花が咲き、緑のベンチが置いてあります。玄関を入ると居室が並び、奥には各ユニットがあり、利用者は自由に行き来することができます。裏庭にも花壇や菜園があり、利用者が好きな花を育て、菜園では季節に応じて芋やキュウリ、トマトなどを栽培しています。リビング兼食堂の中央には、木目のテーブルが置いてあり、テーブルを囲んで一人ひとりの体型や状態にあった椅子が置かれ、日中利用者が過ごす憩いの場となっています。食堂と繋がって畳スペースがあり、茶ぶ台やソファが置いてあり、洗濯物をたたむ作業台や思い思いに過ごすスペースとなっています。テーブルや棚には、花を飾り、鉢植えを育てている利用者もいます。リビングに座ると台所での家事の様子や庭の洗濯物が目に入り、日常の生活空間が広がります。リビングには、職員、利用者同士の会話や笑い声が響き、笑顔で過ごす様子が見られます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の椅子の他にも何箇所かにソファーを配置し、フローア隣接の和室等、入居者様個々人が好きな場所で、入居者様同士の会話を楽しみながら過ごされる等、思い思いにリラックスして頂ける空間 創りを心掛けている。また、入居者様同士の相性にも配慮し、個々人が思い思いに過ごして頂ける空間づくりを心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、入居者様のご自宅で使用されていた愛着のある家具等を持ち込んで頂く事で、以前の生活との変化を最小限におさえ、家具の配置も安全を配慮した上で、本人様が混乱されない様配慮している。 また、家族写真や思い出の物を飾る等し、本人様が居心地良く安心して過ごせる空間づくりを心掛けている。	職員は、できるだけ入居前の利用者の生活環境を継続できるように、馴染みの物、大切なものを持参してもらうよう、利用者や家族に働きかけています。居室には、家具やタンス、寝具、テレビ、人形やぬいぐるみ、雑誌や本など思い出の品や使い慣れたものが持ち込まれ、一人ひとりの部屋の設えはさまざまです。フローリングの上に絨毯を敷き布団で生活をしている利用者やベッドで生活をする利用者など、一人ひとりの希望や生活習慣に合わせて対応しています。居室はカーテンの色も異なり、一人ひとりの部屋の雰囲気が違うため、ドアを開けると自身の部屋が分かる工夫をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の介護計画を基に「できること」「わかること」が継続できるよう、生活意欲の向上に繋がる様なお声掛けや役割を共有し、「その人らしい」を念頭に、入居者様の目線に合わせて、トイレや居室の場所を掲示する等、認識の混乱削減に努め、出来るだけ自己能力を活用して頂けるよう支援している。</p> <p>また、安全面においても危機管理委員会を通し、安全な導線の確保と事故防止に努め、全職員で安全かつ自立支援に繋がる様な環境作りに取り組んでいる。</p>		